

演題名	飼養管理改善による黒毛和種長期不受胎牛へのアプローチ		
発表者氏名	大森 朋子	所属	伊那家畜保健衛生所
<p>平成 21 年 6 月、繁殖和牛 14 頭を飼育する農場から繁殖成績を向上させたいとの相談があった。繁殖成績を調べた結果、過去 1 年以内に分娩した牛は 2 頭のみで、平成 15 年から分娩記録のない牛もいた。ただし、胚の採取により、産子を 5 年間で 53 頭生産した牛もいた。対策として農場と協議の上、時間を要するが、診療経費の掛からない飼養管理改善による方法とした。日本飼養標準添付ソフトによる飼料計算を行ったところ、高蛋白、高エネルギーの飼料給与だったため、トウモロコシとソルガムの混播サイレージの減量給与と配合飼料給与の一時中止を指導。2 か月後、血液生化学検査を実施したところ、血中尿素窒素（以下 BUN）が低値傾向であり、再度給与飼料の見直しを実施。その後、血液生化学検査と子宮、卵巣の超音波診断を併用して実施。結果、BUN は有意に高くなり、5 頭の受胎を確認。卵胞のう腫を繰り返す牛 1 頭を発見し診療獣医師による治療を実施。現在は 8 頭の受胎を確認し、繁殖成績は改善した。</p>			